

大学名 福岡教育大学

第63号 特集テーマ「学生支援」
特集タイトル「みんなで支えるキャンパスライフ」

表題

まなぶ・つなぐ・ひろがる ～学生が創る主体的な学びの支援プロジェクトが発足～

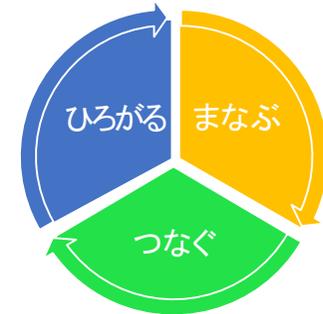


COMES Netの中心で活動する4年生の運営スタッフ

共に創る、主役は学生。——魅力あふれる福教大に。

福岡教育大学では、学生が自ら中心となって学びの場を企画し、互いに学び合い、学生の手によって全学向けの情報を発信するという、主体的な課外活動に取り組んでいる。

「学生支援ネットワークCOMES Net」として、令和3年4月に発足したこのプロジェクトは、基本理念を「まなぶ・つなぐ・ひろがる」と掲げ、大学事務局とも連携した活動を展開している。「COMES(かむず)」という愛称は、Co-creation, Opportunity, Management, Education, Societyそれぞれの頭文字から命名。現職教員との交流会、先輩と後輩との交流会、学校防災研修、Q-U研修など、将来役立つ「学びの場」を企画・開催している。また、大学事務局と協働した公式オリジナルグッズの開発や、SNSを使った広報など、大学のPR活動にも積極的に取り組んでいる。



COMES Net の基本理念図

「生涯学習」の考え方を取り入れ、学びの輪や学友の和が繋がりを、ひろがって欲しいと願い、学生が考案した基本理念は、COMES Netの合言葉になっている。

地域に感謝！学生によるボランティア活動推進

本学では、教育現場に出たときに即戦力となれる「教育実践力」を身に付けるために、日々多くの学生が、大学を取り巻く学校・地域・福祉施設等の協力のもとで、多種多様なボランティア活動に取り組んでいる。

COMES Netは、校長経験者のボランティアコーディネーター(特命教授)とも連携し、全学を挙げて年1回開催する「ボランティア活動報告会」の企画および運営を担っている。ボランティア活動報告会は令和3年度で7回目を迎え、本学関係者の他に、教育委員会、近隣校校長、コミュニティ・センター関係者等を招いて、開催されている。

令和3年度は、「学生のリアルな声」を発信することをコンセプトに、オンライン会議などを活用し準備を進めた。当日はボランティアの実践報告に加え、自らのボランティア活動経験を登壇者が語り合う「トークライブ」などの新しい企画がステージ上で展開された。



「ボランティア・トークライブ2021」のようす

期待できる成果・評価

本取組の成果は、学生の主体的な学びの場を創出できたことである。企画から運営までを経験することで、さらなる「教育実践力」アップが実現されることは、学生にとって大きな糧となる。また、本活動を通して「学生のリアルな声」が届くようになり、これからは、そういった学生の声の大学運営にも反映されると考えている。社会の変化は加速しているが、これまでの組織では迅速に取り組めなかったことも多かった。学生主体のこの活動では、新規の取り組みにも積極果敢にチャレンジすることができている。学生のチャレンジが、大学の活性化につながることを期待したい。



大学広報誌JOYAMA通信 50号
創刊50号を記念する特別企画として、COMES Netのプロジェクトチームが記事執筆・紙面構成を担当した。学生目線で大学を紹介した記事は学内・外で好評を得た。